

(別記)

2019 年度相良村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本村は、熊本県の南部、人吉球磨盆地のほぼ中央に位置し、村の中央を一級河川である川辺川が北から南にかけ貫流し、その流域に水田地帯が広がっており、その面積は全耕地の40%にあたる499haとなっている。

本村の農業は、北部（四浦地区）の山間地帯と南部（川辺・深水・柳瀬地区）の平坦地に区分される。農地の多くは、中南部の平坦部に広がり、河川沿いの水田では米、たばこ、施設園芸作物（イチゴ、トマト、メロン等）、飼料作物等、それ以外の畑地では茶、栗、放牧（畜産）等が、一方、中山間地では棚田等での小規模な農地が点在し、米、茶等、それぞれ地域の特性を活かした多様な農産物が生産されている。

しかし、農業者の高齢化や後継者不足等の問題も深刻化しており、食料自給力の低下を招く恐れがあるため、担い手の育成及び確保は重要な課題となっている。

そのため、農地中間管理機構などによる担い手への農地集積・集約化を進め、効率性向上や生産コストの削減による安定経営を目指すとともに、収益力向上につながる作物や小規模経営農家等への取組みも推進する必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

村内の水田において、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、野菜や新規需要米、麦、そば、加工用米等を中心に支援を実施し、面積の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

需要に応じた品質と供給量を維持しながら、主要品種の「ヒノヒカリ」を中心に「森のくまさん」「にこまる」や業務用米等、品種の選定や低コストにつながる生産方法と収益性の確保を図りながら、地域の特性を活かした特色ある米づくりを目指す。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金を活用し、担い手の作付拡大や多収性品種の取組等を支援し生産性の向上を図るとともに、耕畜連携（ワラ利用、資源循環）による水田の有効活用の推進を進める。

イ WCS用稲

転作作物の中心的な取組みであるため、地域内の需給バランスを注視しながら耕種農家と畜産農家との連携による良質な粗飼料生産を行い、畜産農家のコスト低減を図る。また、担い手への集積によるコスト抑制や多収品種導入も推進する。

ウ 加工用米

J A等と連携し、販売経路を確保し安定供給を目指していく。また、焼酎用原料米については、専用品種「たちかるか」の取組みを推奨し、定着を図っていく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、担い手を中心に地域一体での営農を推進する作物として位置づけ、産地交付金による団地化及び二毛作を推進することで、作付面積の維持、品質向上、低コストによる経営の安定を図る。

大豆については、近年作付面積の減少が続いているが、関係機関と連携し栽培技術の確立を図り、生産拡大を図る。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家の連携による水田活用の柱として位置づけており、今後も高品質な飼料の供給を目指すため、産地交付金を活用し資源循環、二毛作の作付支援を図る。

(4) そば

近年、地域の特産品の一つとして取組みが広まりつつあるため、今後は需要者のニーズを意識し、品質の確保及び生産性の向上及び作付面積の維持・拡大を行うため、排水対策や二毛作の取組みを支援する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

農業者の所得向上に向け、産地交付金を有効に活用しながら、特色ある産地づくりを促進（地域振興作物）する。

特に、地域振興作物として「イチゴ」「トマト」「メロン」「ズッキーニ」「里芋」「ニンニク」「オクラ」「キュウリ」「ネギ」「かぼちゃ」「ナス」「トウガラシ」「ピーマン」「ブロッコリー」「薬用作物」「種子用作物」「えごま」等については重点・特別振興作物として位置づけ、作付面積の維持・拡大を図っていく。

(6) 畑地化の推進

村内において、農業者の高齢化や後継者不足により、所要の用水を供給する設備及び施設維持・管理することが困難となってきた地域が増えること予想され、遊休農地化が懸念される。

そこで、このような地域においては、畑地化を推進し畑作物への転換を支援していく。

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 前年度の作付面積 (ha) | 当年度の作付予定面積 (ha) | 2020年度の作付目標 面積 (ha) |
|-----------|------------------|--------------------|---------------------------|
| 主食用米 | 199ha 969 t | 205ha 988 t | 205ha 988t |
| 飼料用米 | 2.7 | 5.2 | 4 |
| 米粉用米 | 0 | 0 | 0 |
| 新市場開拓用米 | 0 | 0 | 0 |
| WCS用稲 | 116.0 | 120 | 120 |
| 加工用米 | 1.0 | 2.5 | 2 |
| 麦 | 24 | 24 | 30 |
| 大豆 | 1 | 1 | 2 |
| 飼料作物 | 68 | 72 | 90 |
| そば | 7.5 | 7.5 | 7 |
| なたね | 0 | 0 | 0 |
| その他地域振興作物 | 30.1 | 30.1 | 30.1 |
| 野菜 | 12.4 | 15.1 | 15.1 |
| ・イチゴ | 1.1 | 1.8 | 1.8 |
| ・トマト | 1.0 | 1.0 | 1.0 |
| ・メロン | 1.4 | 1.3 | 1.3 |
| ・ズッキーニ | 2.5 | 3.0 | 3.0 |
| ・里芋 | 1.6 | 2.5 | 2.5 |
| ・その他野菜 | 4.7 | 5.5 | 5.5 |
| 薬用作物 | 1.6 | 1.5 | 1.5 |
| 種子用野菜 | 1.0 | 1.7 | 1.7 |
| えごま | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| 花き・花木 | 0.2 | 0.2 | 0.1 |
| 雑穀 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| その他作物 | 4.7 | 3.4 | 3.4 |

※主食用米の目標値(2019、2020年度)において使用した単収は **482 kg/10a**

4 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 | 前年度（実績） 2018年度 | 目標値 2020年度 |
|----------|--|-------------------------|-----------|--|--|
| | | | | | |
| 1 | 麦、そば（基幹、 二毛作） | 担い手加算 | 担い手利用集積 | 基幹：8.8 ha 二毛作：22.3 ha | 基幹：8.6 ha 二毛：27.4 ha |
| | | | 収量の増大 | 麦：233 kg/10a そば：63 kg/10a | 麦：245 kg/10a そば：75 kg/10a |
| 2 | 飼料用米（基幹） | 担い手多収品種 加算 （飼料用米） | 担い手利用集積 | 2.7 ha | 3.0 ha |
| | | | 収量の増大 | 569 kg/10a | 500 kg/10a |
| 3 | 麦 大豆 飼料作物 | 二毛作加算 （二毛作） | 二毛作の取組面積 | 60.3 ha | 66.8 ha |
| | | | 水田の利用率 | 115.6% | (123%) 117.6% |
| 4 | 飼料作物 WCS用稲 飼料用米 | 水田放牧・資源循環・ワラ利用の取組（耕畜連携） | 耕畜連携の取組 | 115.5 ha | 129.74 ha |
| | | | 耕畜連携の実施率 | 61.8% | (55.8%) 64.0% |
| 5 | 加工用米 | 加工用米低コスト生産支援 | 多収性専用品種導入 | 1.0 ha | (1.0ha) 2.5 ha |
| | | | 収量の増大 | 587kg/10a | (495kg/10a) 600 kg/10a |
| 6 | イチゴ トマト メロン ズッキーニ 里芋 | 地域重点振興作物助成 | 作付面積の拡大 | イチゴ：1.14 ha トマト：0.92 ha メロン：1.39 ha ズッキーニ：2.7 ha 里芋：1.6 ha | イチゴ：1.65 ha トマト：0.97 ha メロン：1.37 ha ズッキーニ：2.6 ha 里芋：2.2 ha |
| 7 | ニンニク オクラ キュウリ ネギ かぼちゃ ナス トウガラシ ピーマン ブロッコリー 薬用作物 種子用作物 えごま | 地域特別振興作物助成 | 作付面積の拡大 | 7.5 ha | 10.0 ha |
| 8 | 花き・花木 雑穀 その他作物 | 地域振興作物助成 | 作付面積の拡大 | 4.8 ha | 3.7 ha |

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）